学習のしおり

まえむきに　なぜだろうと　考えよう！

学びをひろげ　努力でのびる　こどもたち！

まえむきに、あきらめず

なぜだろう、じっくり考え

ひろげよう、学んだことを

のびるこつ、予習・復習

こどもたち、考え出し合い、伝え合おう

年　　組　　番　　氏名

学習について考えよう。

学習の心構え

毎日の授業を大切にし、真剣に学習を進めよう。＜**さしすせそ学習**＞

さ　さがす学習

何を学ぶか、大事な問題は何かなどの学習する目的や目当てをさがそう。

し　調べる学習

学習の計画を立てたり、資料を準備したりして、調べ方や進め方を考えよう。

す　筋道を立てて考える学習

今まで学習した知識やしかたを使って問題を解いたり、考えたりしよう。

せ　整理してまとめ確かめる学習

学習したことがらややり方が、よかったかどうか確かめたり、間違いなどを改めておぎなおう。

そ　そうだろうか確かめる学習

練習したり、新しい学習や実際の生活に応用したり活用したりしよう。

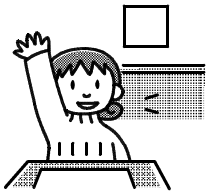
学習のルール

＜授業前＞

① **机の上に、教科書・ノート・筆記用具などの必要なものが　準備してある。**
② **机がきれいに並んでいる。**
③ 教室にゴミが落ちていない。
④ 黒板がきれいになっている。

＜授業中＞

① **1 分前にはチャイム着席をし、先生が来るまで静かに待つ。**
　チャイムと同時に教室に駆け込んでくるのはもってのほかです。落ち着いた 1 時間の授業は出来なくなってしまいますよ。
② **授業の始めには大きな声であいさつをする。**休み時間とのけじめをつけることになります。
③ 進んでしっかり手をあげる。
④ 発言するときはまっすぐ手をあげる。
⑥ **名前を呼ばれたら「はい。」と返事をし、起立する。**
⑤ **はっきりと最後までわかるように発表する。**
⑥ **先生や発言している人の話を目と耳で集中して聞く。**
⑦ 姿勢をくずさない。ほおづえ、居眠り、横座り、たち歩きはもってのほかです。
⑧ ノートは板書だけでなく先生のいったこともメモしよう。
⑨ **授業の最後にも大きな声でしっかりとあいさつをする。**



【太字は３つの達成目標関連項目】

学習習慣をつけよう！

学力向上の為に重要なのは学習習慣を付けることです。

まだ、1 年生の勉強内容はそれほど難しくないので 1 年生のうちはそんなに差がつかないように思えます。でも**学習習慣がついているかどうかは 2 年 3 年と学年が上がるごとにじわじわ影響がでてきます**。

1 年生で学習習慣が身につけば、それ以後は体が覚えていますので、かなり楽に学習習慣が身につくはずです。

2，3 年生で学習習慣をつけるには、学習計画表を作成することです。計画を立てるポイントは、1 週間まずたててみることです。その日やった教科をその日のうちに復習できるように計画を立てます。無理な計画でなく、必ず実行できる計画を作りましょう。そして、1 週間できたかどうかを確認し、できなかった理由を考え、実現可能な計画に作り直しましょう。学習習慣をつけるのは、早ければ早いほど良いものです。今日帰ったらすぐに実行していきましょう。

学習習慣をつけるために『帰宅速攻勉強法』

学習習慣をつけると一言で言っても簡単ではありません。帰ったら、ＴＶもつけず、当然ご飯もお風呂もあとにして、制服を着たままで、玄関からそのまま机の前に直行して速攻で勉強。学校から帰って、**ちょっとでも休憩したらもう動けません。**ですから一切休憩なしで机まで行くことが大切です。いったん机に向かってしまえば、勉強は結構続くものです。そして、病気で学校を休んだ日以外はかならず**毎日これをやってください。例外を作らないことが習慣作りには必要です。**また、時間はどれだけでもかまいませんが、**最低ラインを決め**て必ずそれ以上やるようにしてください。はじめは 30 分からでもＯＫです。これも同様に**例外をつくらない**こと。運動会の日でも部活がきついときでも学校の授業が自習だったときでも、決めた時間以上かならずやらなければいけません。実力をつけるためには勉強内容の充実がポイントになるのですが、習慣をつけるために大切なのは決められた時間数を毎回クリアすることです。そのため、1 年生のうちに習慣をつけておくことが大切で、2 年生からは勉強内容の充実を考えていく必要があります。

1 ランク上の家庭学習のために

① 授業中、先生が大事なところ、必要なことがらだと強調しているところは必ずチェックしておく。

② 授業中よくわからなかったりできなかったところは、はっきりと印をつけておく。

③ チェックしたところ、印をつけたところは、家に帰ったらすぐやり直しをしてみる。

④ やってみて、わからなかったり、できなかったら、必ず先生に質問する。

⑤ 暗記の仕方・・暗記をしたいとき重要なのは、目で見て、声に出し、書き写す。この作業が重要になります。大きな声に出すことで、暗記したい事柄を視覚・聴覚で確認することができるのです。

ながら勉強は通常の学習の１／５以下の成果しか上がらない！

中学生になると、「ラジオを聞きながら」とか「音楽を聴きながら」学習している人が増えてきます。しかし、この**「ながら勉強」は、「勉強しているという自己満足」**でしかありません。学習は、集中してこそ成果が上がります。「○○しながら」だと、そのときの「音楽なり」「会話なり」が勉強以上に頭に入り込んできてしまいます。

自分が好きなことに没頭しているとき、近くで音楽がなっていたりやテレビがついていたとしてもその音楽や内容は一切頭の中に入ってこないと思います。集中しているというのはこういうものなのです。

5 時間のながら勉強は、集中した 1 時間の学習にも満たないことになります。

定期テストの取り組み

普段の授業や家庭学習の取り組みの成果を確認するものが、定期テストです。

(1)　テスト週間…定期テストの 2 週間前から始まり、範囲表などをもとに学習計画を立て、毎日の学習記録を記録して効果的な学習を行いましょう。

(2)　諸活動停止期間…部活動や係活動は停止になります。テスト勉強に集中しましょう。諸活動がないからといって遊んでいたのでは、諸活動停止の意味はありません。

今、何をなすべきか！

「理由のいかんを問わず、しなかったことは、しなかったことなのだ。」

三遊亭円朝

上記は、今は亡き落語会の巨匠三遊亭円朝の言葉である。その道の名人・達人といわれる人ならではの、厳しさのこもった言葉です。中学生になり、早１ヶ月。本格的に家庭学習を充実させる時期です。

「○○があるから、あとでいいや」「部活で疲れたから、今日はいいや」のくりかえし。

しかし、

歳月は人を、待たず、光陰は矢の如しである。勉強だけがすべてはないと人は言う。

だからこそ、**何かをやっているときに、並行して勉強する事が大切なのである。**

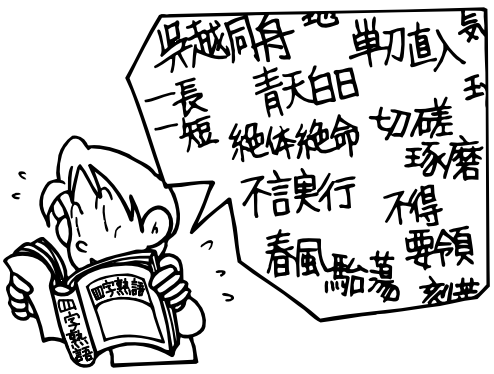
各教科の学習の仕方

各教科を担当して下さっている先生方より、家庭学習の仕方についてアドバイスをいただきました。参考にして下さい。

国語

① ファイル(自分で記録したページ、配られたプリント)
ワーク　ノート
} を丁寧に繰り返し確認する。

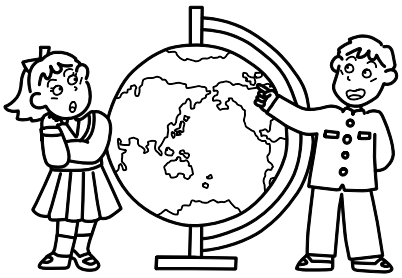
② 教科書の学習した部分を良く読む。
・読めない漢字・意味のわからない言葉がないようにする。
・辞書をたくさん引く
・説明されている内容が理解できていることに自信が持てるまで繰り返し読む。

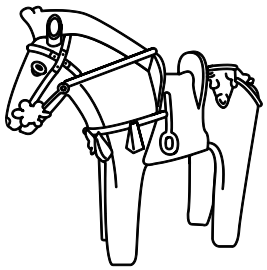


社会

① 意味が理解できなかった用語は自分で調べ理解しておくこと。

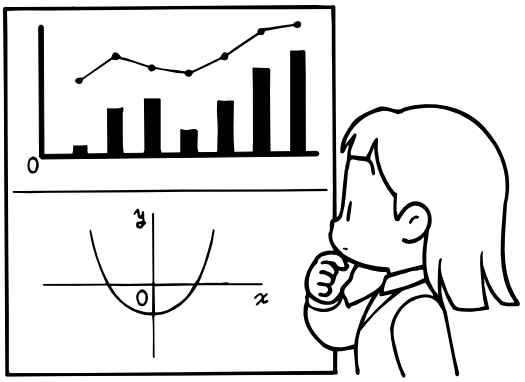
② 地理の基本は、「地図」です。単元ごとに白地図をノートに移します。その地に授業などで学んだ地形や産業などを書き込みます。次に、農産物を別の白地図に記入ていきます。この２つの白地図を何度も何度も書いていきます。そしてなにも見ないで地図が完成出来たらＯＫです。





③ 歴史の基本は年表と文化です。教科書に出てくる事柄を時代順に整理し、それぞれの時代の事柄に付随する事柄を思い出していく。それに、文化の特色や具体的な内容を理解していく。歴史的史料に触れて行くことも大切です。年表を作るポイントは教科書、ノートを参考にしていきましょう。

数学



学校で使用している問題集以外に問題集を１冊購入すると良い。

基礎計算力を身に付けるためには、**問題をたくさん解いて練習する。**

１ページごとに答え合わせをし、間違ったところはどこで間違ったか必ず確認すること。

さらに、力をつけるためには、応用問題に挑戦していく。

わかるとできるようになり、できるようになると楽しくなっていくはず。

数学は比較的結果に出やすいので、やれば高得点が望めるでしょう。

理科

中学校の勉強の内容は、小学校と比べて、ぐっと難しくなります。テスト前に慌てて教科書を読み直したり、暗記事項を詰め込んだりするようでは、実力が身につきません。日頃から勉強する習慣をつけましょう。「あとでまとめて」と考えずに「毎日少しずつ」を心がけます。１年生は、**土台づくり**の期間です。暗記事項の覚え方のコツをつかむなど、基本的な勉強方法を段階を踏まえて固めていきましょう。

ステップ１

○授業で学んだことを、ノート・教科書・プリントを使って復習する。

（※自分のノートは最高の参考書です。

日頃から、見直しやすい【色や図を上手く使うと良いです】ノート作りを心がけましょう）

ステップ２

○重要単語を書き出して覚える。

（※ただ、単語を覚えるのではなく、その単語を説明できるようにしましょう。

写真や図を見ながら、**目**で覚えるのもコツです）

ステップ３

○ワーク・単元テストをやってみる。

（※間違えたところは、何度も繰り返してやりましょう。自分の間違えやすいポイントが見えてきます。テスト前は、同じ問題を最低３回は繰り返してやりましょう。）

ステップ４

○テストが終わったら必ず、テスト直しをしましょう。

（※テスト直し用のノートを１冊作りましょう。

自分だけの苦手克服ノートができます。）